

第1 一般高齢者

1 日常生活自立度

日常生活自立度は、「健康」が53.9%、「生活自立」が42.0%、「要支援」「要介護」は2.0%となっています。「健康」について、前期高齢者と後期高齢者を比較してみると、後期高齢者では、前期高齢者の約3分の2となっています。

また、「要支援」「要介護」の人の要介護認定の申請状況を見ると、「要支援」の人では、約半数は「申請するつもりはない」と回答しています。「要介護」の人では、要介護認定申請中の人約3分の1となっています。

図5 - 1 - 1 日常生活自立度

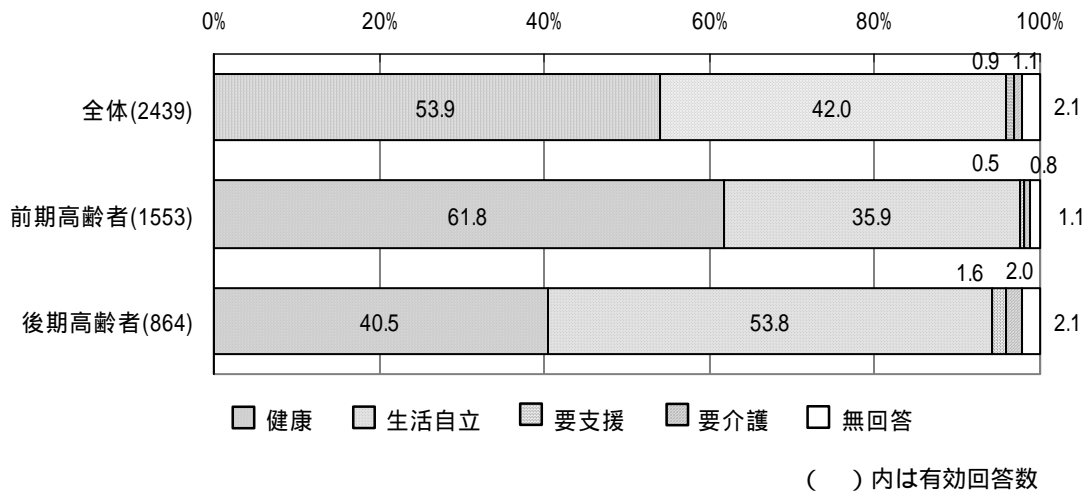
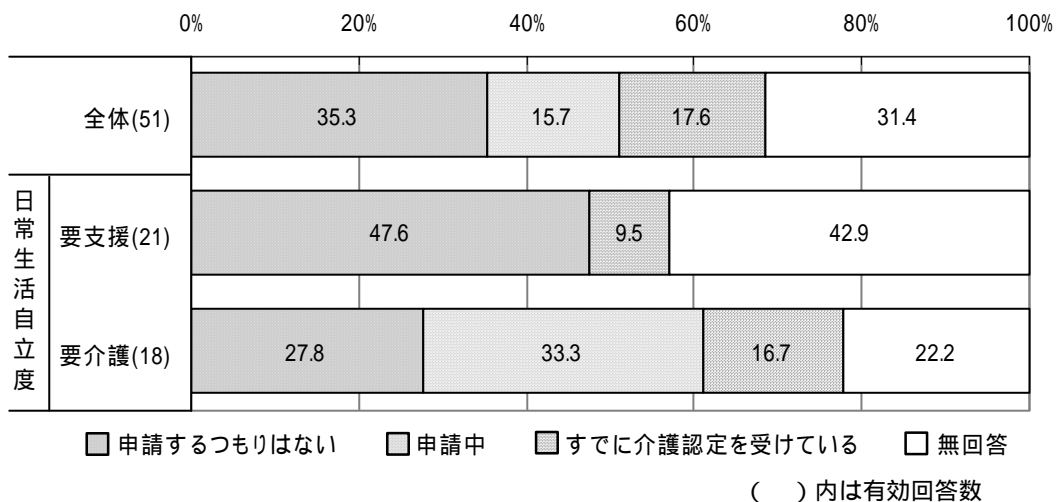


図5 - 1 - 2 要介護認定申請状況

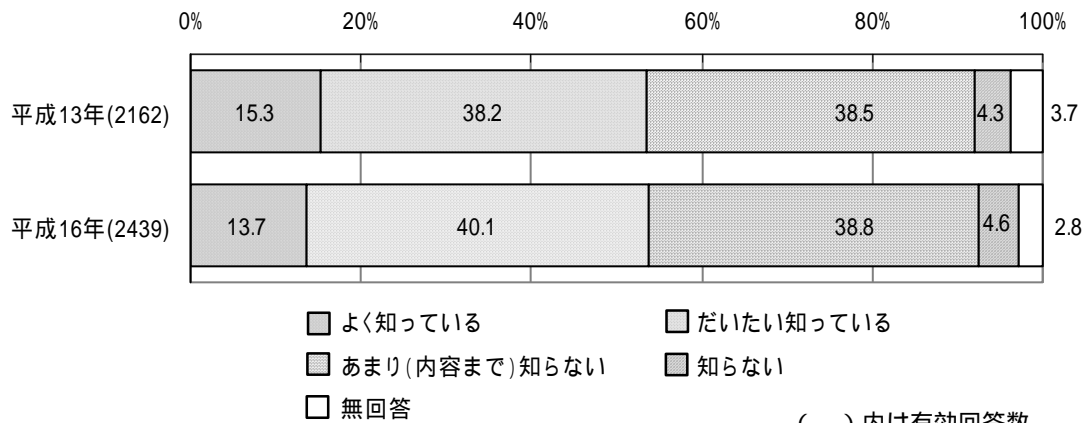


2 介護保険制度

(1) 介護保険制度の周知状況

介護保険制度の周知状況について、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた割合は53.8%となっています。平成13年に比べて周知の広がりはありません。これは、介護が必要とならないと、積極的に知ろうとしない面がうかがわれます。

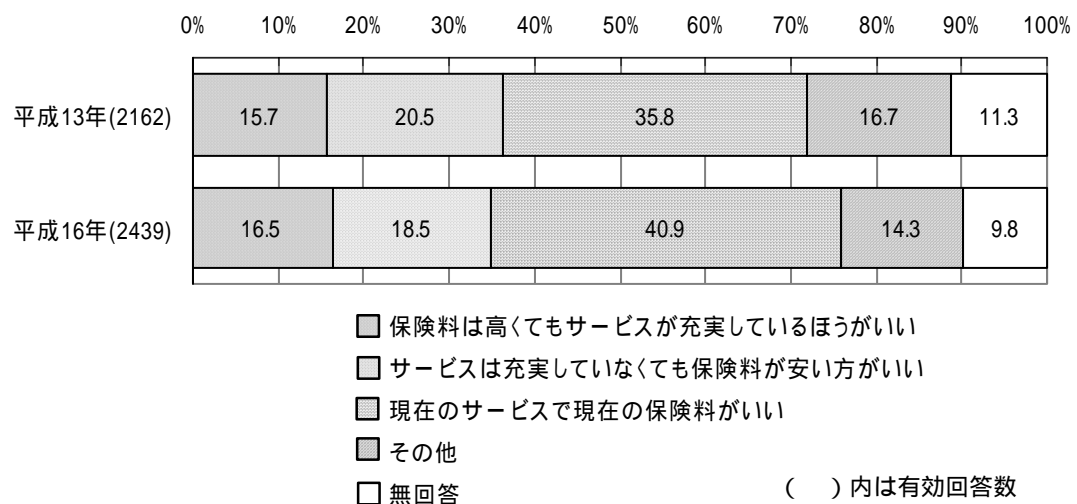
図5-1-3 介護保険制度の周知状況



(2) 介護サービスの水準と保険料について

介護サービスの水準と保険料とのバランスについてみると、「現在のサービスで現在の保険料がいい」が40.9%で最も高くなっています。平成13年に比べて、「現在のサービスで現在の保険料がいい」が高くなっており、介護保険サービスが充実してきたことなどが考えられます。

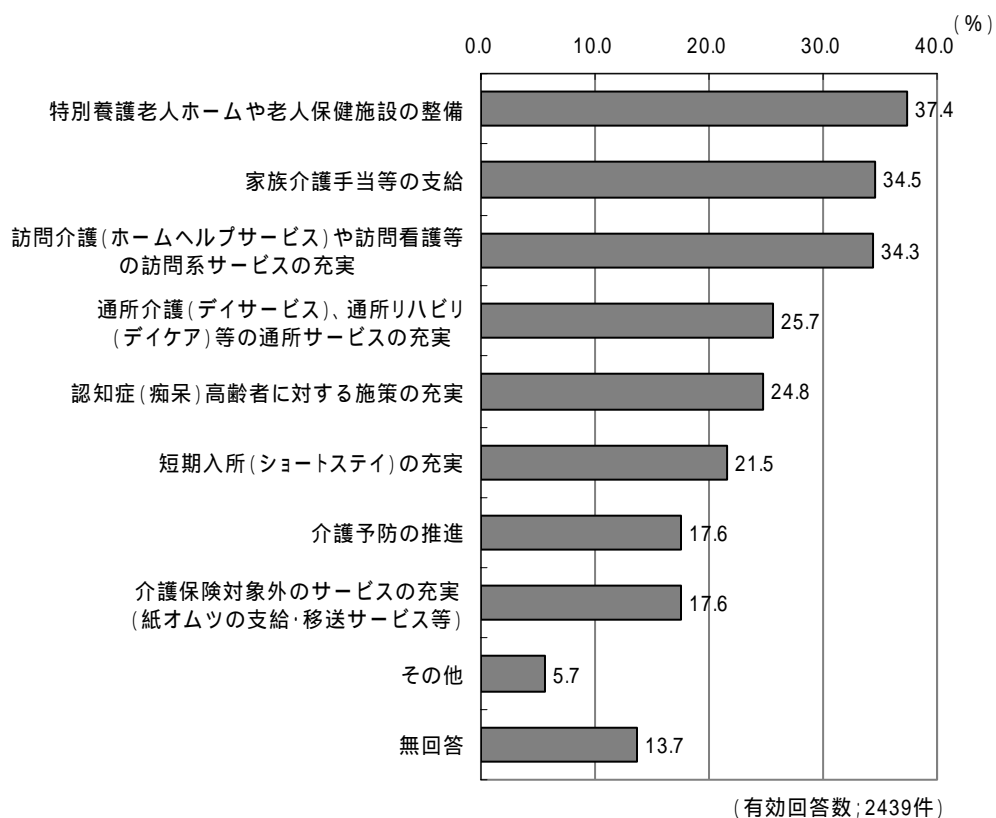
図5-1-4 介護保険サービスの水準と保険料のバランス



3 充実の必要があると考えられるサービス

充実していく必要があると考えられるサービスについては、「特別養護老人ホームや老人保健施設の整備」(37.4%)、「家族介護手当等の支給」(34.5%)、「訪問系サービスの充実」(34.3%)が30%を超え、他のサービスに比べて高くなっています。

図5 - 1 - 5 充実が求められるサービス



4 保健・福祉サービスの利用状況と利用意向

下図は、保健・福祉サービスの利用率と利用希望率を比較したものです。右側のグラフは、利用希望率の利用率に対する比率を示したものです。

これをみると、全般に利用希望率が利用率を上回っています。その中で、「健康診査やがん検診」は、利用率と利用希望率が比較的近い率となっていますが、「健康教育や健康相談」は、利用率に対して利用希望率が高くなっています。また、「在宅介護支援センター」については、利用率に対して利用希望率が7.5倍となっており、将来、本人や家族などが介護が必要になった場合を想定した利用希望と考えられます。

図5 - 1 - 6 保健・福祉サービスの利用率と利用希望率

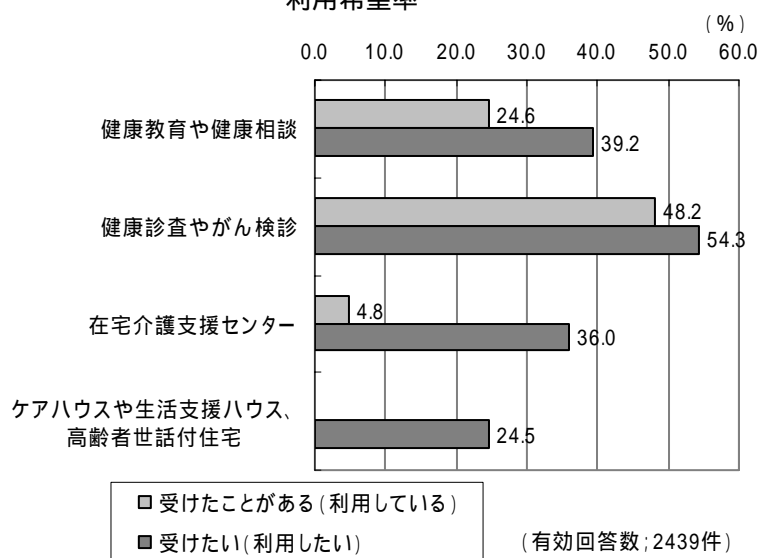
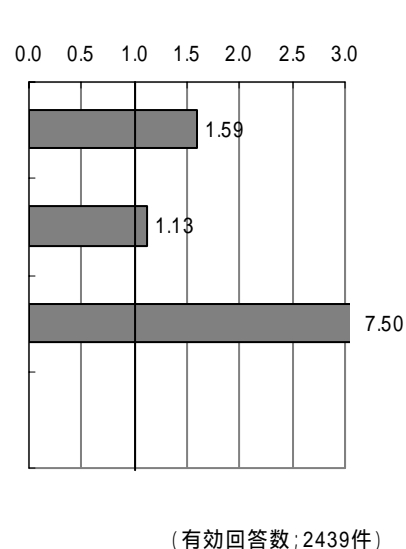
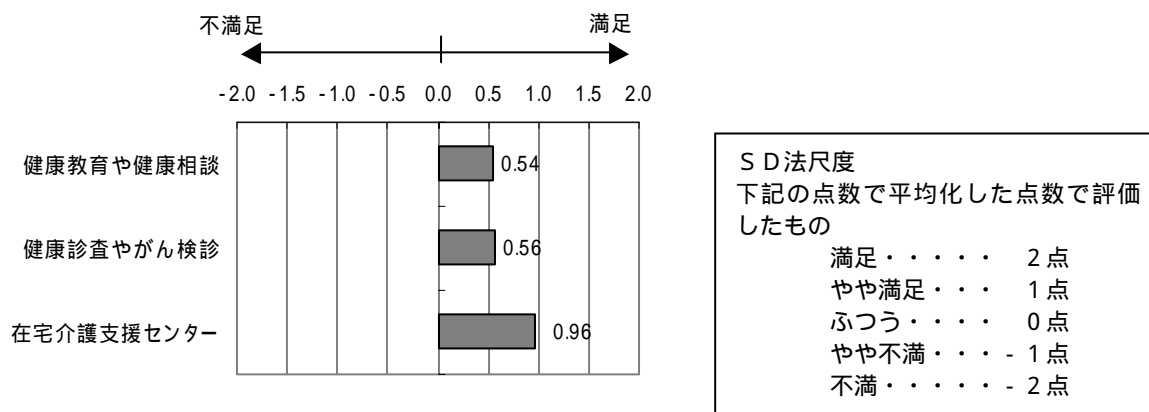


図5 - 1 - 7 利用希望率/利用率



保健・福祉サービスの満足度をSD法尺度を用い点数化して比較しました。全体には、プラス評価であり、満足している人が比較的多いことがうかがわれます。

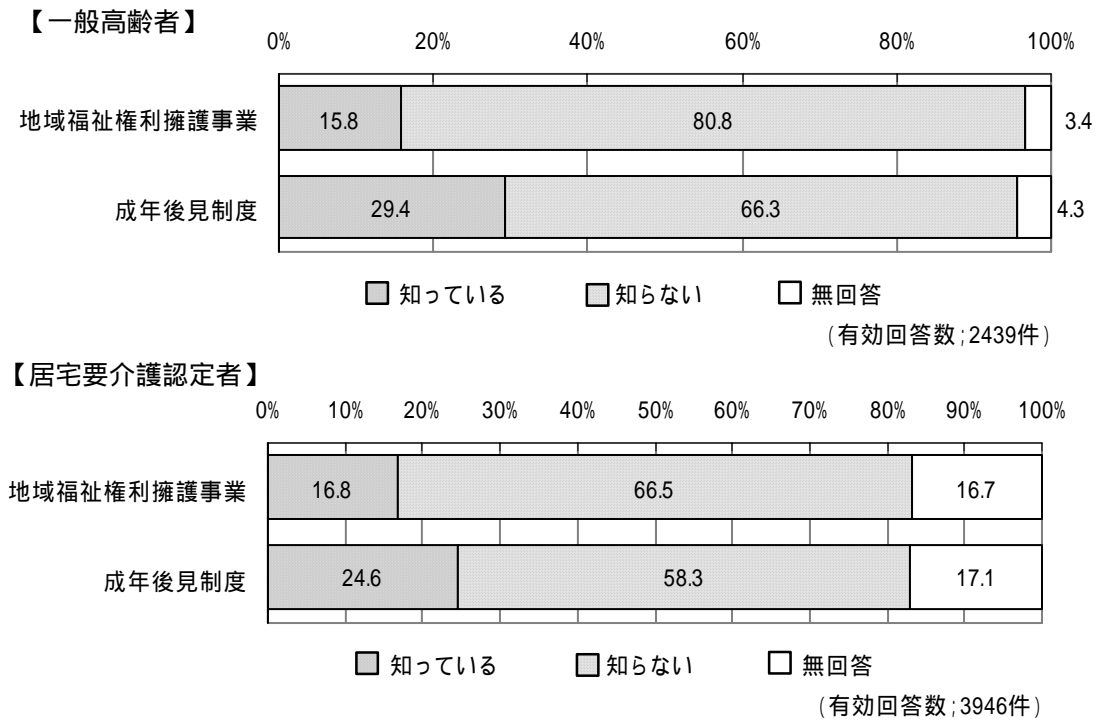
図5 - 1 - 8 保健・福祉サービスの満足度



5 地域福祉権利擁護事業と成年後見制度

地域福祉権利擁護事業を「知っている」人は一般高齢者で 15.8%、居宅の要介護認定者で 16.8%となっています。成年後見制度を「知っている」人は一般高齢者で 29.4%、居宅の要介護認定者で 24.6%となっており、いずれも3割に満たない状況になっています。

図5 - 1 - 9 地域福祉権利擁護事業と成年後見制度の周知状況



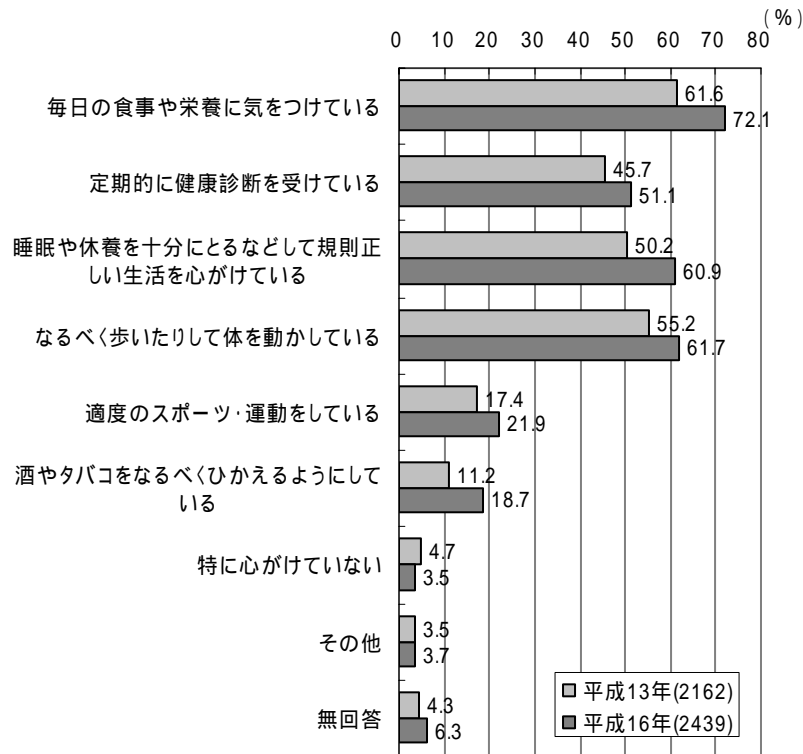
6 健康管理

(1) 健康について心がけていること

健康について心がけていることについては、「毎日の食事や栄養に気をつけている」(72.1%)、「なるべく歩いたりして体を動かしている」(61.7%)、「睡眠や休養を充分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」(60.9%)が6割を超えています。

平成13年と比較すると、全体的にポイントが高くなっており、健康管理に対する意識の高まりがうかがわれます。その中で、「毎日の食事や栄養に気をつけている」「睡眠や休養を充分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」は10ポイント以上高くなっており、食生活や生活習慣に関する意識の高まりがうかがわれます。

図5 - 1 - 10 健康について心がけていること



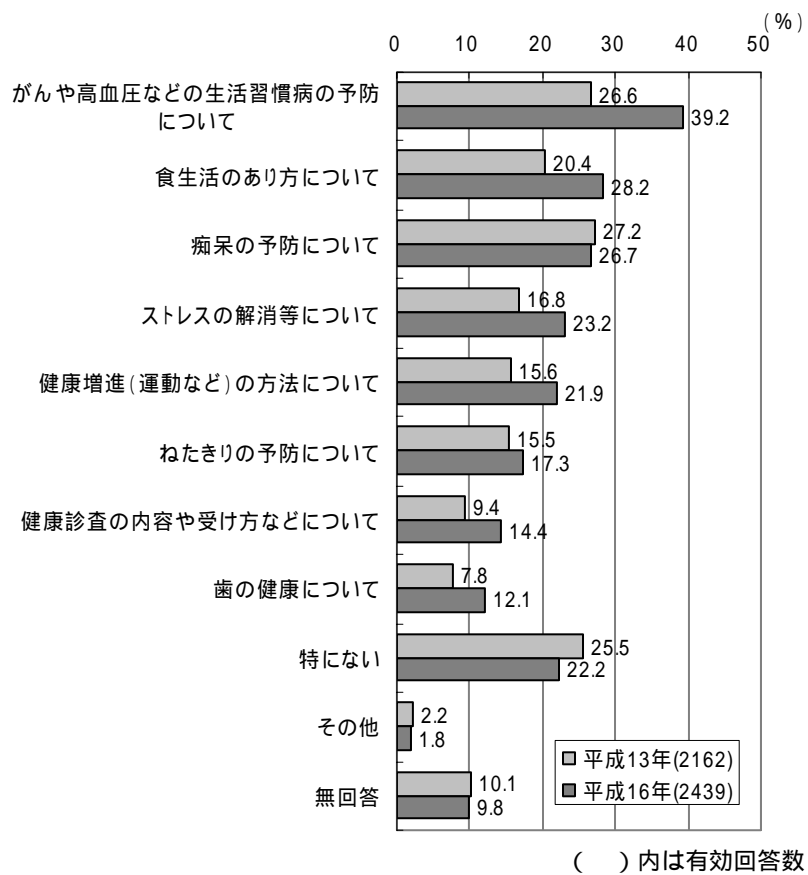
()内は有効回答数

(2) 健康について知りたいこと

健康について知りたいことについては、「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」が高く 39.2%となっています。次いで「食生活のあり方について」が 28.2%となっています。

平成 13 年と比較して、健康について日ごろ心がけていることと同様に「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」「食生活のあり方について」の生活習慣や食生活に関することが高くなっています。特に「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」に関する意識が高まっている結果となっています。

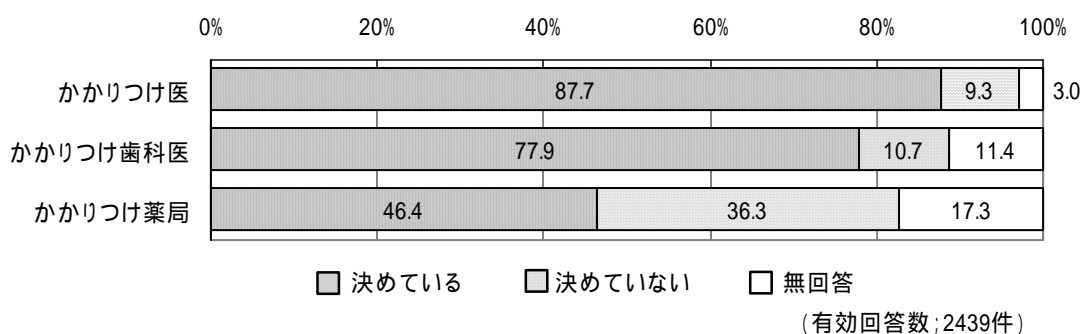
図5 - 1 - 11 健康について知りたいこと



7 かかりつけ

かかりつけの医者や歯医者、薬局について決めている人は、「かかりつけ医」で 87.7%、「かかりつけ歯科医」で 77.9%、「かかりつけ薬局」で 46.4%となっています。医者や歯医者はかかりつけを決めている人が多いですが、薬局に関しては、ドラッグストアなどの量販店の普及などを背景に半数以下になっています。

図5 - 1 - 12 かかりつけを決めている人

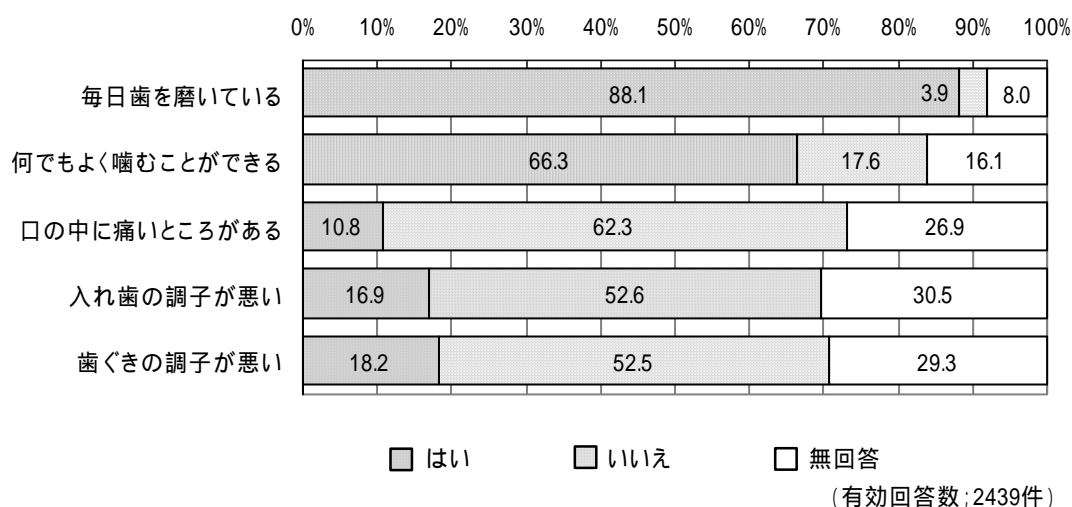


8 口腔ケア

毎日の歯磨きは概ね 9 割の人が行っていますが、「何でもよく噛むことができる」は 66.3%に過ぎません。

また、「口の中に痛いところがある」「入れ歯の調子が悪い」「歯ぐきの調子が悪い」などの調子が悪いところがある人も 1 割以上あります。

図5 - 1 - 13 口腔に関する状況

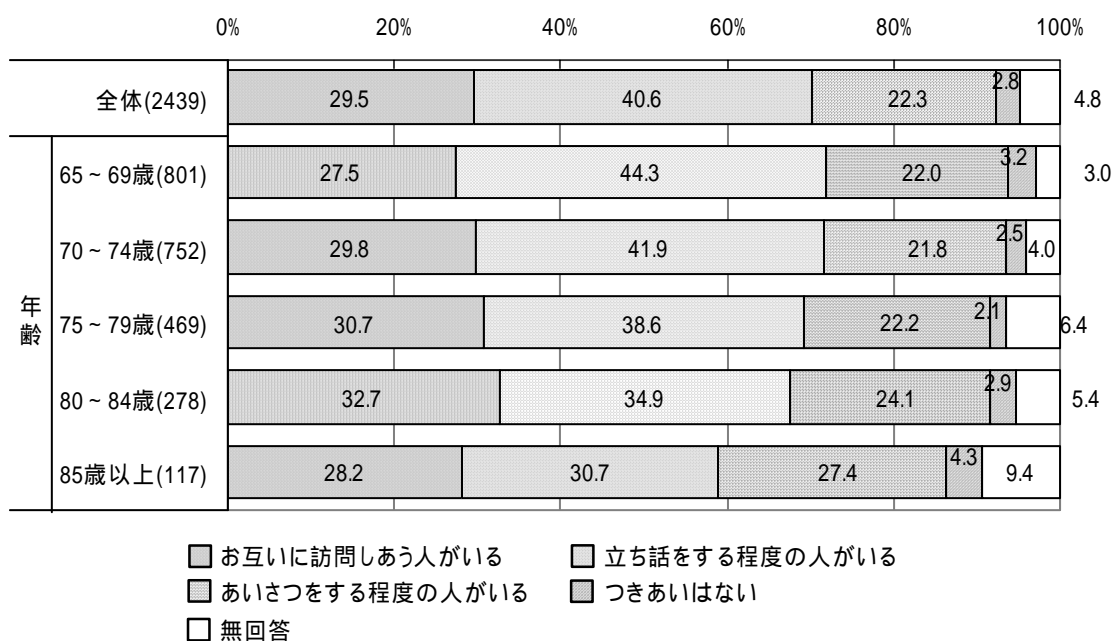


9 近所づきあい

近所づきあいの程度をみると、「立ち話をする程度の人がいる」が40.6%と最も高く、「つきあいはない」は2.8%となっています。

年齢が高くなるほど「立ち話をする程度の人がいる」が低く、「あいさつをする程度の人がいる」が高くなる傾向があり、加齢とともに近所づきあいの程度が希薄となる傾向がうかがわれます。このアンケートは基本的には要介護状態でない人を対象としていることを考慮すると、身体機能低下による問題は少なく、閉じこもりが懸念されます。

図5 - 1 - 14 近所づきあいの状況

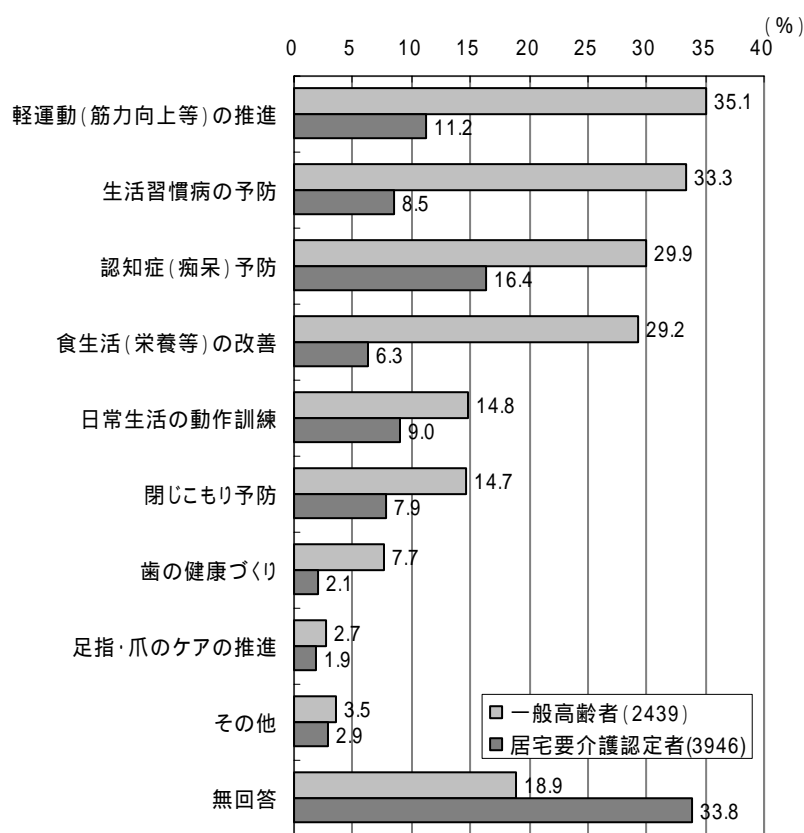


10 介護予防に関して力を入れて欲しいこと

介護予防に関して市に力を入れて欲しいことをみると、一般高齢者では、「軽運動（筋力向上等）の推進」「生活習慣病の予防」が3割を超えています。そのほか、「認知症（痴呆）予防」「食生活（栄養等）の改善」が高くなっており、これら4項目が他の項目に比べて2倍程度高くなっています。

一方、居宅要介護認定者では、全体に一般高齢者に比べて低くなっています。その中で、「認知症（痴呆）予防」が16.4%と高くなっています。

図5 - 1 - 15 介護予防に関して力を入れて欲しいこと

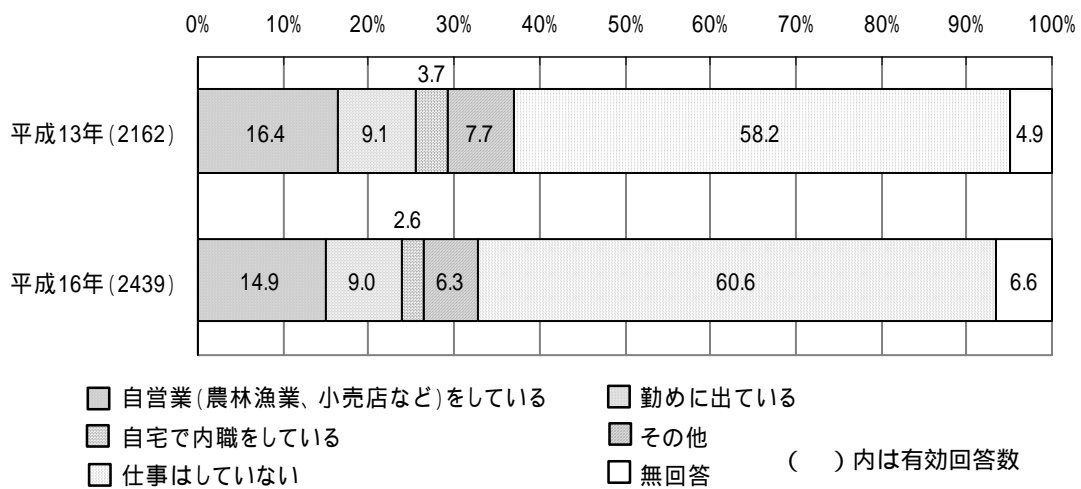


()内は有効回答数

1 1 就労状況

「自営業（農林漁業、小売店など）をしている」「勤めに出ている」「自宅で内職をしている」を合わせた就労者の割合をみると、平成13年が29.2%、平成16年が26.5%と低くなっており、逆に「仕事はしていない」が平成13年が58.2%、平成16年が60.6%と高くなっています。この要因としては、長引く経済不況による影響と後期高齢者の増大などが考えられます。

図5 - 1 - 16 就労状況

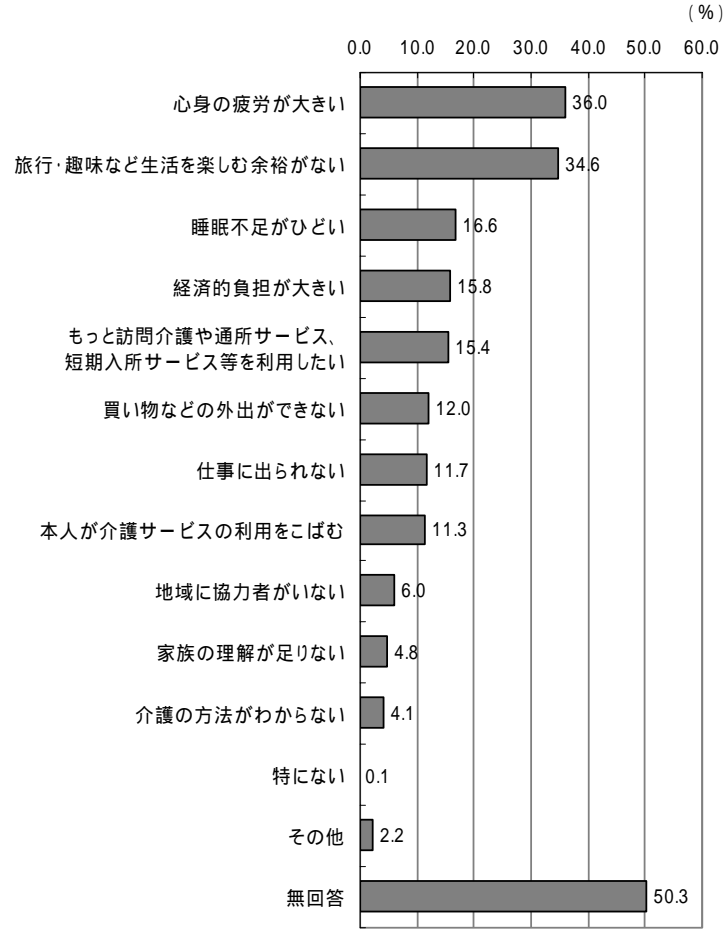


1 2 高齢者虐待

介護するうえで困っていることをみると、「心身の疲労が大きい」が最も高く 36.0%となっており、心身の介護負担が大きいことがうかがわれます。

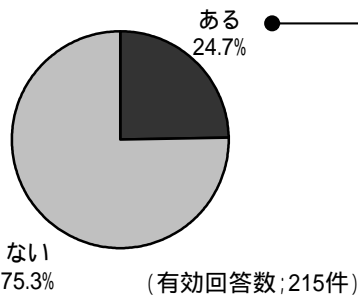
そのような中で、高齢者虐待を経験した居宅介護支援前門員は、約4分の1(24.7%)となっています。また、その時の相談先は「在宅介護支援センター」が最も高く、高齢者虐待に関して「在宅介護支援センター」の果たす役割が大きいことがうかがわれます。

図5 - 1 - 17 介護するうえで困っていること



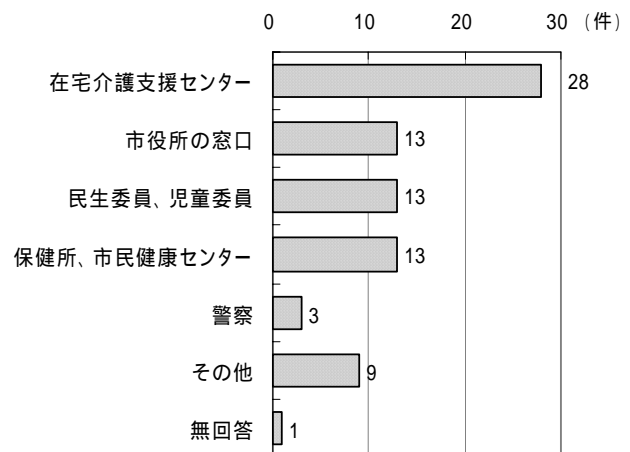
(有効回答数;2735件)

図5 - 1 - 18 高齢者虐待事例の経験



(注) 無回答を除いて計算した

図5 - 1 - 19 高齢者虐待事例時の相談先

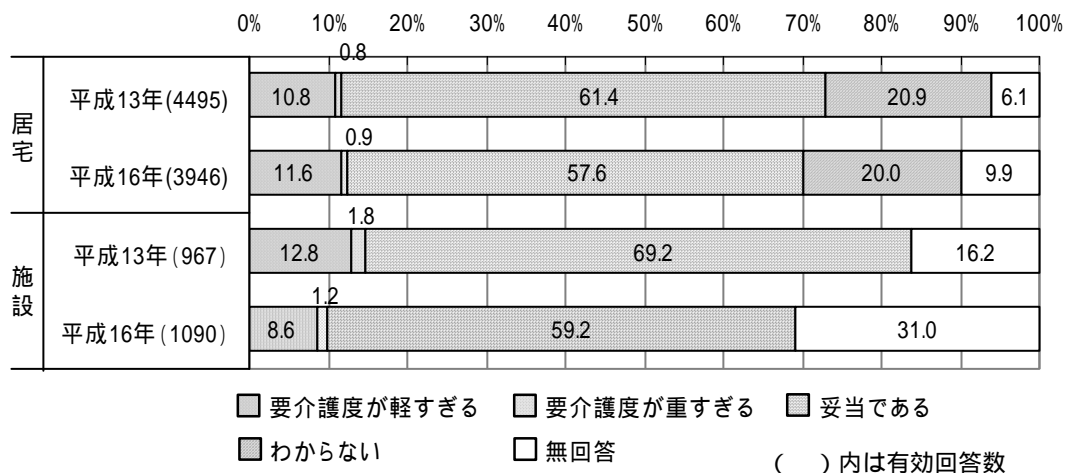


第2 介護保険事業

1 要介護認定

要介護認定の満足度について、居宅の要介護認定者では、「妥当である」が57.6%であり、平成13年に比べて3.8ポイント低くなっています。一方、施設入所者においては、「妥当である」が59.2%ですが、平成13年に比べて10ポイント低くなっています。しかし、施設入所者では、無回答が多く、これを除くと平成13年(82.6%)に比べて平成16年(85.8%)はほぼ横ばいの数値と言えます。

図5-2-1 要介護認定に対する満足度



2 居宅サービス

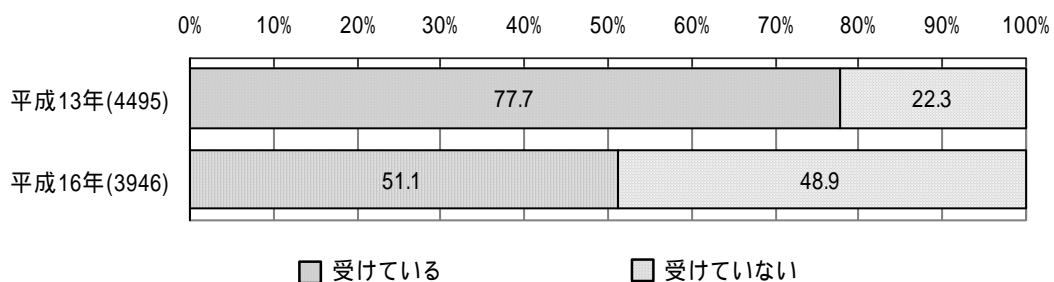
(1) サービスの利用状況

居宅サービスの利用状況は、「受けている」が51.1%であり、平成13年に比べて著しく低くなっています。

サービスを受けていない理由は、「サービスを利用するほどの状態ではない」が最も高くなっています。さらに、サービスを受けていないのに要介護認定を申請した理由をみると、「今はサービスを利用するつもりはないがいざというときに利用する」が最も高く(31.7%)なっています。

高齢者が増えサービスの需要が全体として高まっている一方で、いざという時に備えて要介護認定を受けている人が増え、相対的にサービスの利用率の低下となっていることがうかがわれます。

図5-2-2 居宅サービスの利用状況



(注) 無回答を除いて計算した

()内は有効回答数

図5 - 2 - 3 居宅サービスを受けていない理由

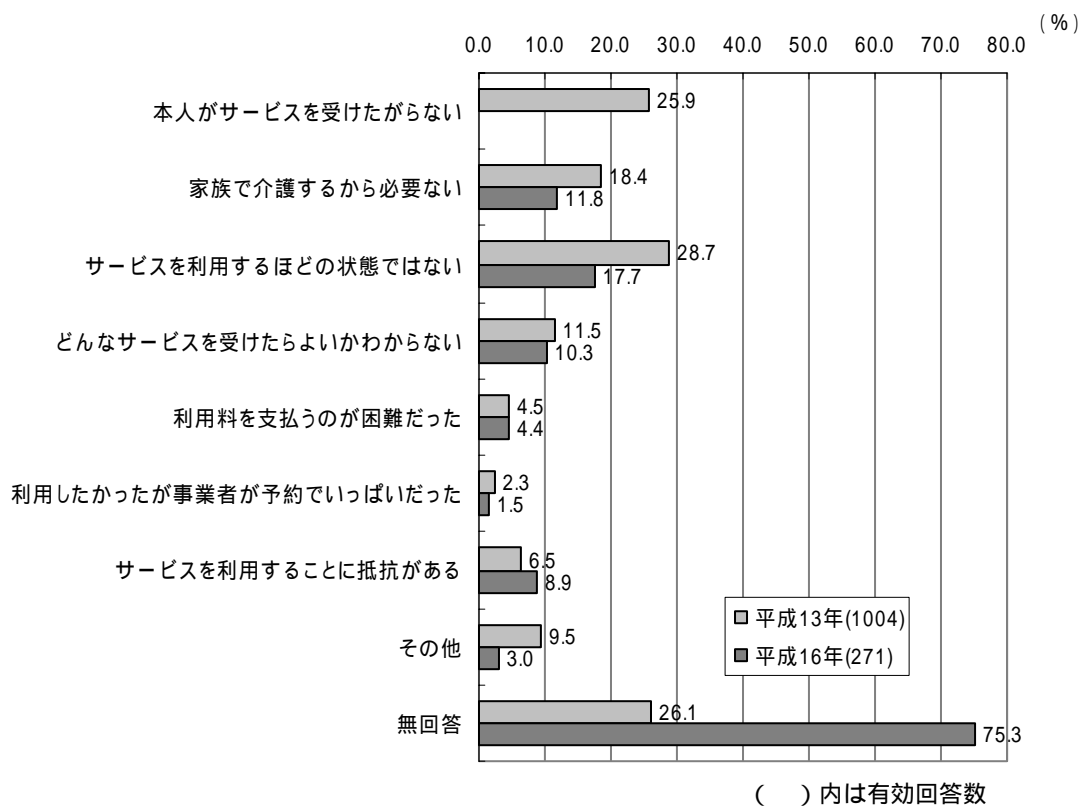
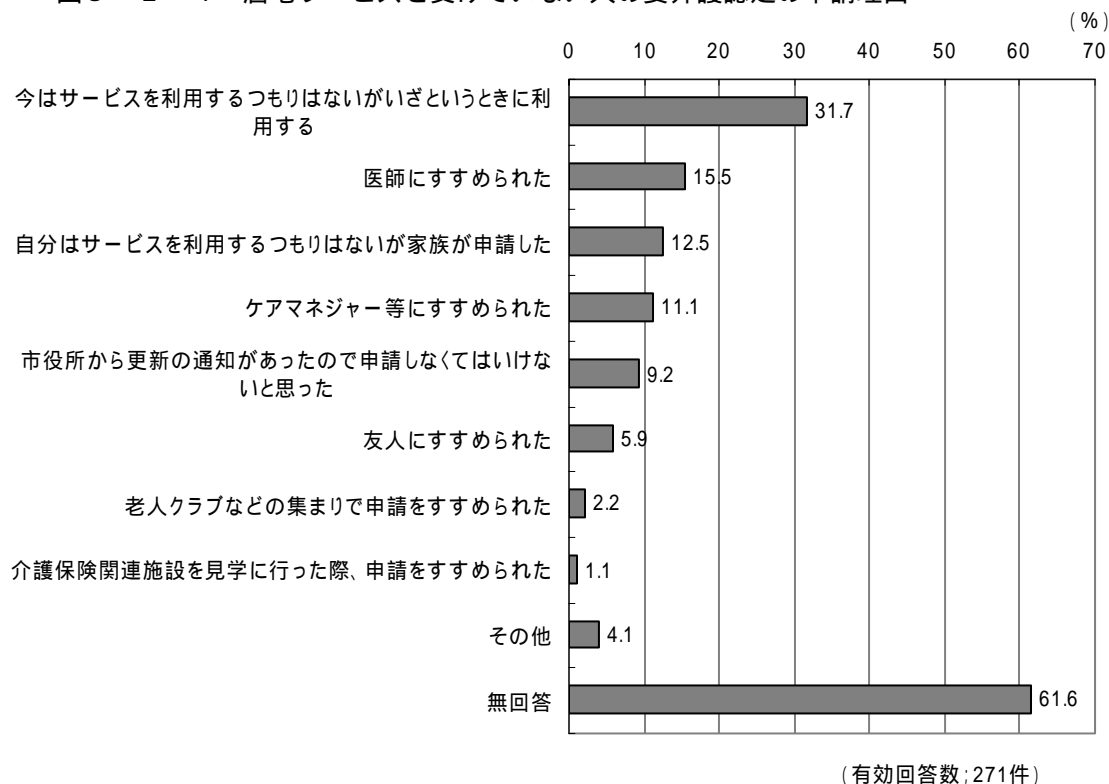


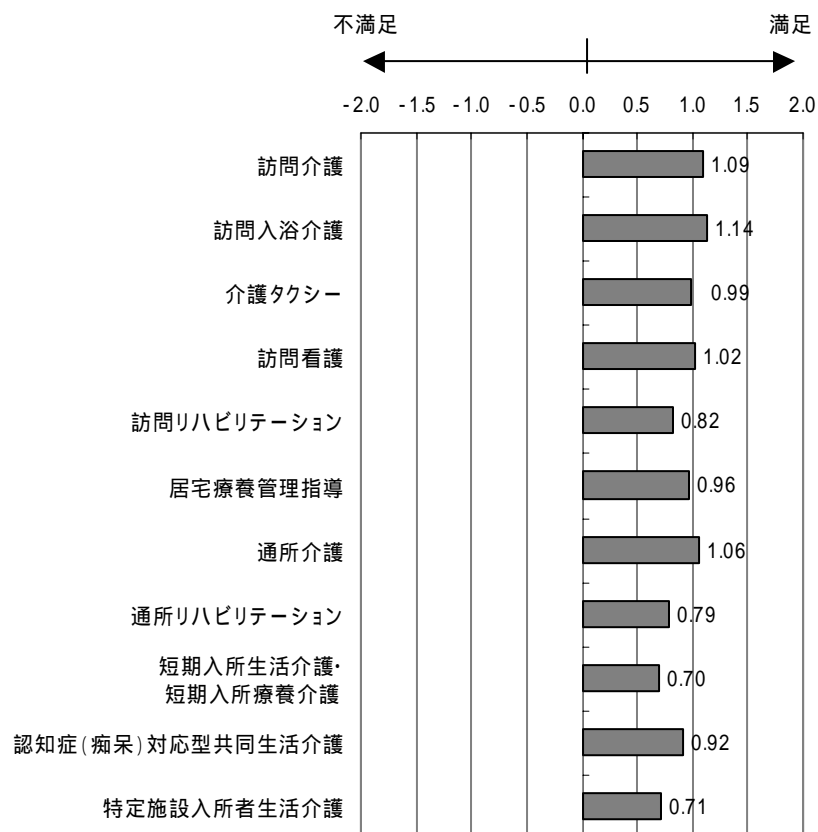
図5 - 2 - 4 居宅サービスを受けていない人の要介護認定の申請理由



(2) 種類別居宅サービスの満足度

種類別居宅サービスの満足度をSD法尺度を用い点数化して比較しました。全体には、プラス評価であり、満足している人が多いことがわかりますが、「短期入所生活介護・短期入所療養介護」「特定施設入所者生活介護」は比較的低い満足度となっています。

図5 - 2 - 5 種類別居宅サービスの満足度



SD法尺度
下記の点数で平均化した点数で評価したもの

| | |
|------|-----|
| 満足 | 2点 |
| やや満足 | 1点 |
| ふつう | 0点 |
| やや不満 | -1点 |
| 不満 | -2点 |

(3) 種類別居宅サービスの利用状況と利用意向

下図は、種類別居宅サービスの利用率と利用希望率を比較したものです。右側のグラフは、利用希望率の利用率に対する比率を示したものです。

これをみると、「住宅改修費の支給」以外は、利用希望率が利用率を上回っています。利用率に対する利用希望率の比率をみると、利用率が低い居宅サービスにおいて高い倍率となっています。

しかし、これらの利用希望が即、将来の利用につながることはなく、当事者の生活自立度や家族をはじめとした生活環境などの条件から判断されるものと考えられます。

図5-2-6 種類別居宅サービスの利用率と利用希望率

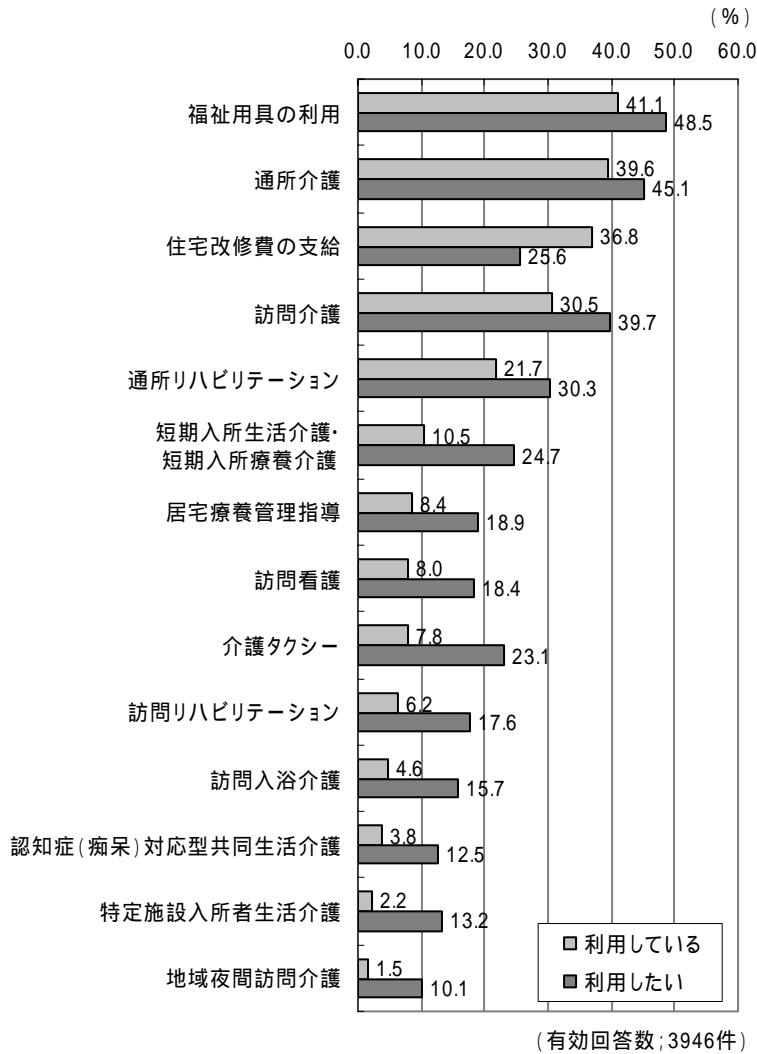
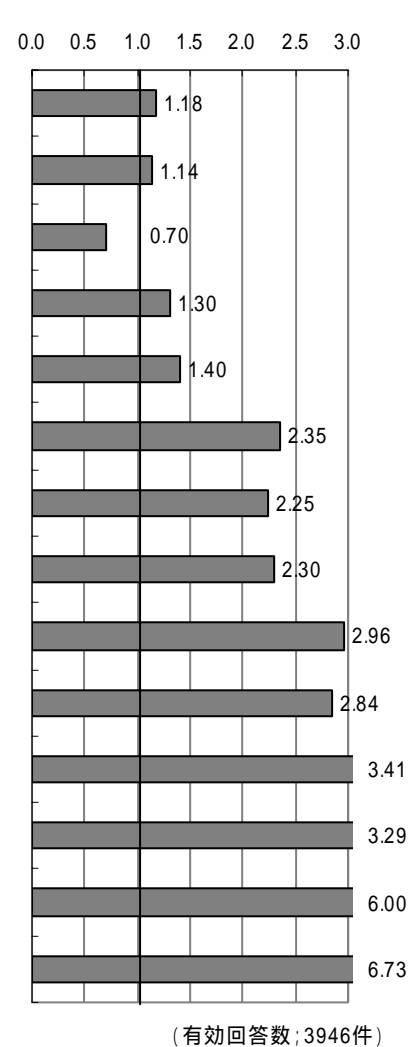


図5-2-7 利用希望率/利用率

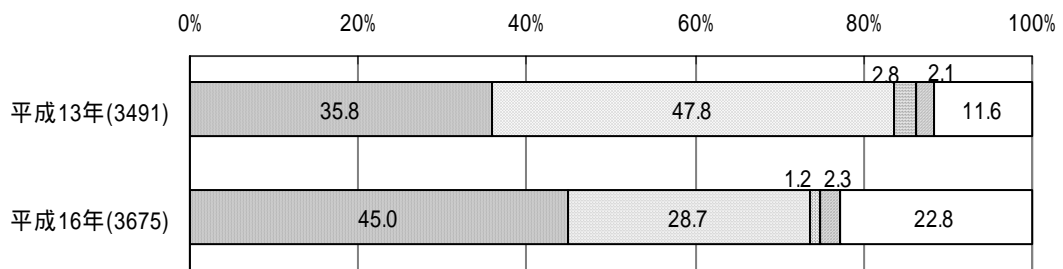


(4) 本人の身体的・精神的変化

サービスを利用しての身体的・精神的な変化をみると、「良くなった」が45.0%で、「変わらない」の28.7%を大きく上回っています。

平成13年と比較すると、「良くなった」が9.2ポイント高くなっており、介護保険サービスが利用者に対して良い影響を及ぼしていることがうかがわれます。

図5-2-8 利用者の身体的・精神的変化



良くなった
 変わらない
 悪くなった
 その他
 無回答

()内は有効回答数

3 施設サービス

(1) 施設の改善要望

介護保険施設で改善してほしいことについては、「機能訓練あるいはリハビリをやってほしい」が12.8%、「入浴の回数を増やしてほしい」が12.0%、「気軽に相談する窓口がほしい」が11.9%となっています。

また、ユニット型のケアに関連する項目では、「部屋は、個室にしてほしい」は5.0%、「家庭的な雰囲気の中で介護してほしい」が9.2%の要望があります。

将来、介護を受けたい場所の希望別にみると、自宅を希望している人からの改善要望としては、「頼んだことをすぐやってほしい」「気軽に相談する窓口がほしい」が高くなっています。また、他の施設を希望している人からの改善要望としては、「気軽に相談する窓口がほしい」「機能訓練あるいはリハビリをやってほしい」が高くなっています。今後も現在の施設を希望している人では、「入浴の回数を増やしてほしい」「機能訓練あるいはリハビリをやってほしい」が高くなっています。

表5 - 2 - 1 施設の改善要望

| 区分 | 食事のメニューをもっと工夫してほしい | 食事を食堂以外の場所でも食べられるようにしてほしい | 食事をせかさなideほしい | 入浴時のプライバシーを守ってほしい | 入浴の回数を増やしてほしい | 入浴を夕方にしてほしい | 排せつ時のプライバシーを守ってほしい | おむつ交換の回数を増やしてほしい | おむつをやめてトイレに誘導したり、ポータブルトイレにしてほしい | 気軽に相談する窓口がほしい | レクリエーションや趣味活動を充実してほしい |
|----------|--------------------|---------------------------|---------------|-------------------|---------------|-------------|--------------------|------------------|---------------------------------|---------------|-----------------------|
| 全体(1090) | 10.7 | 5.0 | 5.3 | 2.0 | 12.0 | 3.9 | 2.5 | 8.2 | 3.2 | 11.9 | 6.8 |
| 生活希望 | 自宅(102) | 16.7 | 12.7 | 6.9 | 4.9 | 15.7 | 12.7 | 2.9 | 13.7 | 6.9 | 13.7 |
| | 現在の施設(792) | 10.0 | 3.5 | 4.9 | 1.5 | 11.6 | 3.2 | 2.3 | 8.0 | 2.5 | 5.7 |
| | 他の施設(60) | 21.7 | 16.7 | 11.7 | 5.0 | 21.7 | 5.0 | 5.0 | 13.3 | 10.0 | 15.0 |
| | その他(29) | 13.8 | 3.4 | 10.3 | 3.4 | 27.6 | 3.4 | 3.4 | 10.3 | 3.4 | 6.9 |

| 区分 | 酒、コトヒト、たばこなどを楽しめる場所をつくってほしい | 職員の言葉づかいや態度をよくしてほしい | 夜間の対応を充実してほしい | 頼んだことをすくやくやってほしい | 部屋は、個室にしてほしい | 家庭的な雰囲気の中で介護してほしい | 機能訓練あるいはリハビリをやってほしい | 身体や行動の拘束をしないでほしい | その他 | 無回答 |
|----------|-----------------------------|---------------------|---------------|------------------|--------------|-------------------|---------------------|------------------|------|------|
| 全体(1090) | 4.1 | 7.6 | 6.1 | 9.4 | 5.0 | 9.2 | 12.8 | 1.6 | 13.9 | 44.3 |
| 生活希望 | 自宅(102) | 9.8 | 17.6 | 9.8 | 23.5 | 9.8 | 17.6 | 2.0 | 9.8 | 39.2 |
| | 現在の施設(792) | 3.5 | 5.8 | 6.1 | 8.2 | 4.8 | 8.1 | 11.4 | 1.3 | 42.3 |
| | 他の施設(60) | 3.3 | 20.0 | 10.0 | 15.0 | 6.7 | 21.7 | 31.7 | 6.7 | 20.0 |
| | その他(29) | 10.3 | 13.8 | 3.4 | 6.9 | 6.9 | 17.2 | 24.1 | 0.0 | 41.4 |

()内は有効回答数

(2) 施設の入所希望

介護保険施設への入所申し込み状況は、「申し込んでいる」が6.7%、「今後申し込みたい」が12.6%となっています。このうち、入所希望時期についてみると、「とりあえず申し込んでおく」が65.5%を占めており、現在の必要性から申し込んでいるのではなく、将来のための備えとして申し込んでいる人が多くいることがうかがわれます。

希望する将来の生活別にみると、自宅を希望する人では、約半数は「わからない」と回答しています。一方、施設入所を希望している人では、25.1%が「申し込んでいる」であり、39.6%は「今後申し込みたい」と回答しています。

図5-2-9 施設の入所希望と入所希望時期

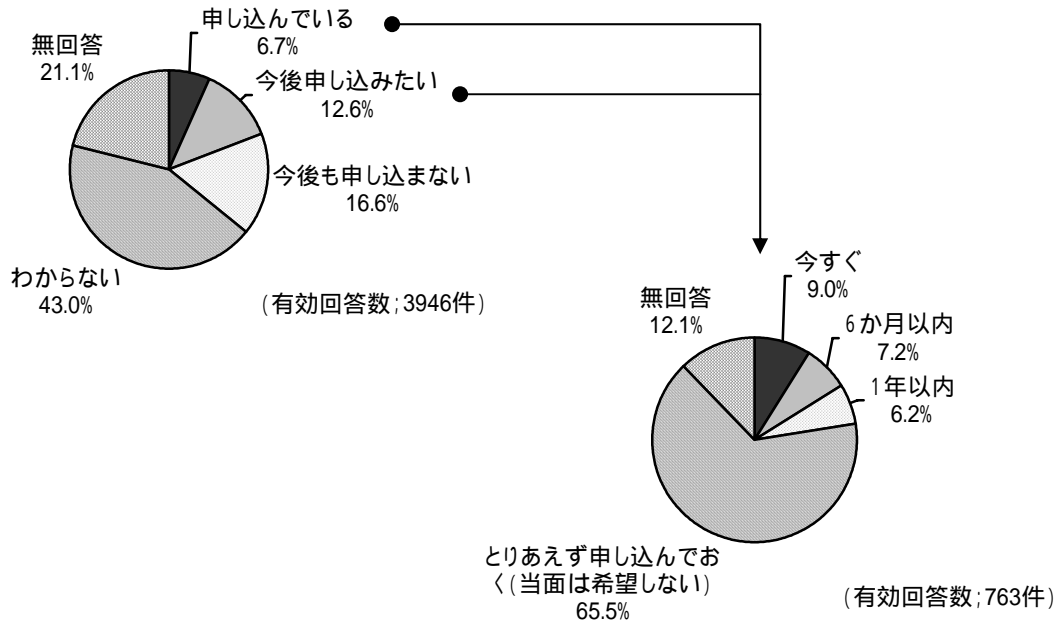


図5-2-10 施設の入所希望と希望する将来の生活

| | | 0% | 10% | 20% | 30% | 40% | 50% | 60% | 70% | 80% | 90% | 100% |
|-----------|-----------------------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|------|
| 全体(3946) | | 6.7 | 12.6 | 16.6 | 43.0 | | | | 21.1 | | | |
| 希望する将来の生活 | 自宅、家族中心の介護(905) | 3.9 | 6.6 | 32.4 | | | | 47.9 | | | | 9.2 |
| | 自宅、介護サービスを受けながら(1662) | 5.4 | 14.7 | 19.1 | 52.3 | | | | 8.5 | | | |
| | 施設に入所(342) | 25.1 | | 39.6 | | | | 18.1 | 15.2 | | | |
| | わからない(454) | 10.1 | 9.0 | 5.9 | 62.7 | | | | 12.3 | | | |
| | 施設に入所(342) | 25.1 | | 39.6 | | | | 18.1 | 15.2 | | | |

□ 申し込んでいる □ 今後申し込みたい □ 今後も申し込まない □ わからない □ 無回答

()内は有効回答数

4 利用者負担

(1) 利用者負担額

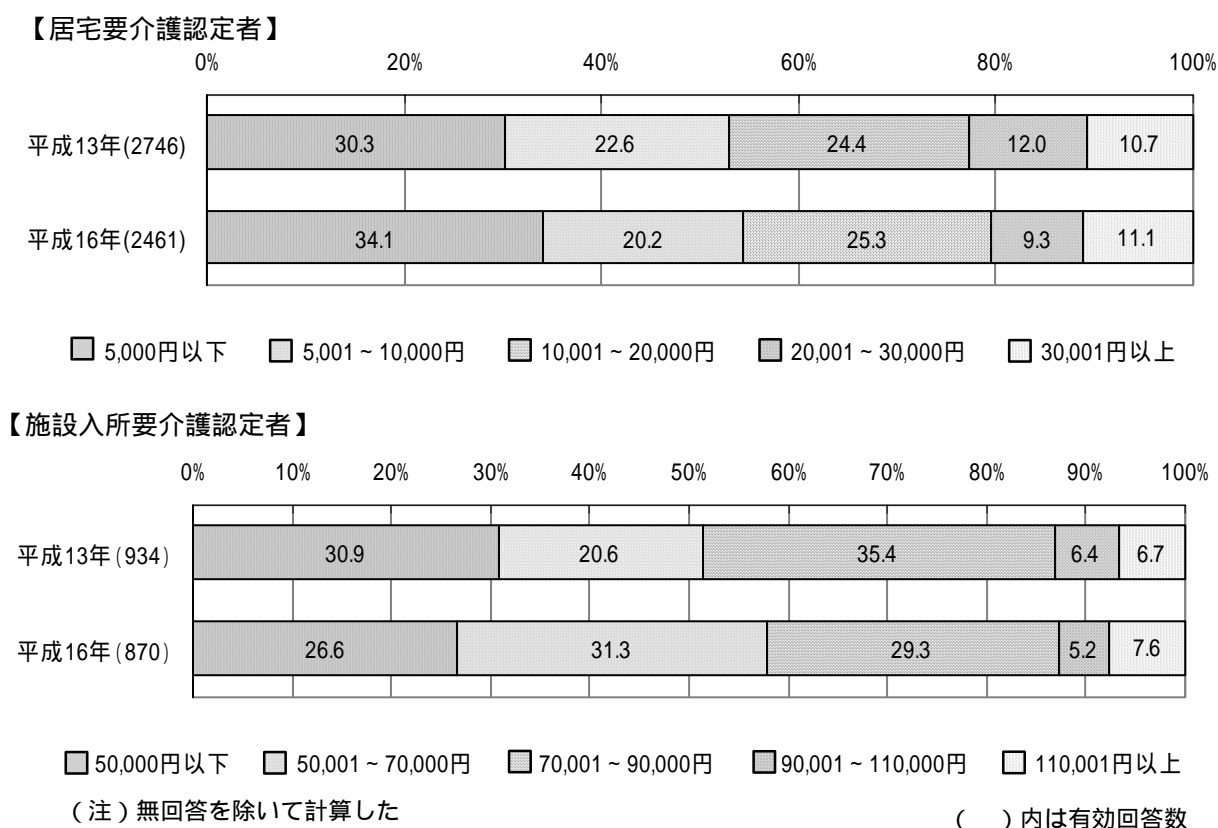
月あたりの利用者負担額をみると、平成16年においては、居宅では「5,000円以下」(34.1%)、施設では「50,001～70,000円」(31.3%)が最も高くなっています。

平成13年と比較すると、居宅では「5,000円以下」が3.8ポイント高くなっており、施設では「50,001～70,000円」が10.7ポイント高くなっています。

居宅において利用者負担額が低くなった傾向がみられますが、要介護認定を受けてサービスを利用していない人の増加によるものと推測されます。

施設においては、平成13年では「70,001～90,000円」が最も高かったものが、平成16年においては「50,001～70,000円」が最も高く、利用者負担額が低額化していることがうかがわれます。

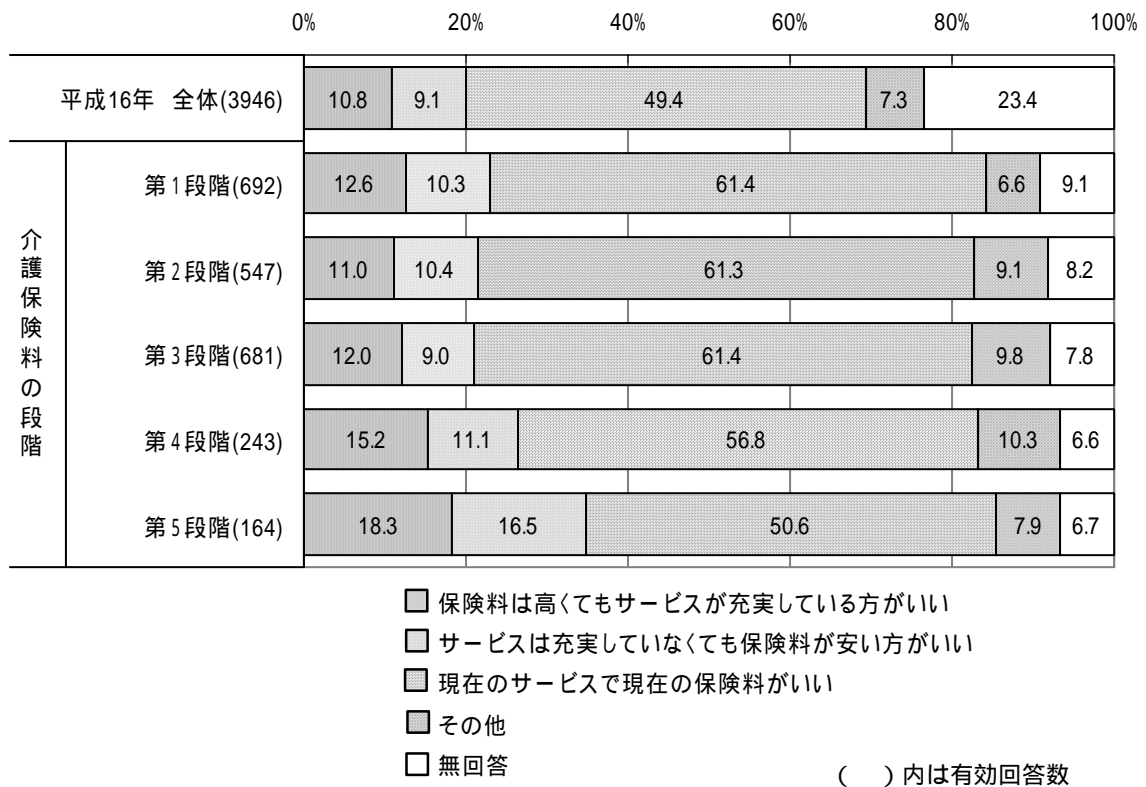
図5-2-11 サービス利用による利用者負担額



(2) 介護サービスと保険料

介護サービスの充実と介護保険料とのバランスに対する考えをみると、「現在のサービスで現在の保険料がいい」が最も高く 49.4%となっています。介護保険料の段階別にみると、平均的な段階である第3段階よりも上の第4、5段階では、意識が2極化しており、サービスの充実を求める声と保険料を安くする声が各々高くなっています。

図5 - 2 - 12 介護サービスと保険料とのバランスに対する考え



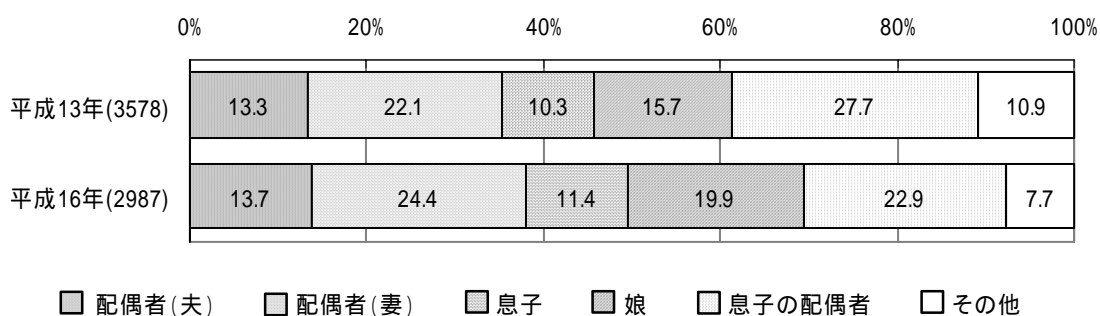
5 介護者

(1) 主な介護者

主な介護者は、「配偶者(妻)」が24.4%、「息子の配偶者」が22.9%、「娘」が19.9%となっており、家族の女性が多くなっています。

平成13年と比較すると、「配偶者(妻)」「娘」が高くなり、「息子の配偶者」が低くなっています。この背景には、子どもたちが結婚などを機に世帯分離する世帯の増加に伴い三世帯世帯が減少し、高齢者のみの世帯が増加したことがあります。

図5-2-13 主な介護者との関係



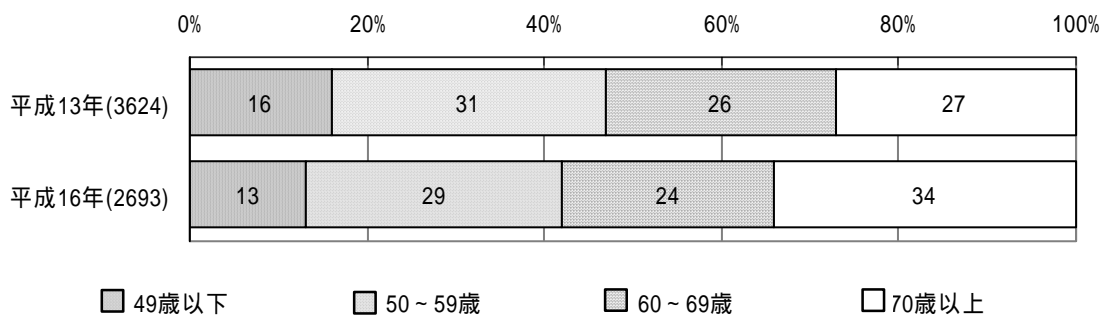
(注) 介護者がいない、無回答を除いて計算した

()内は有効回答数

(2) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は、いわゆる老老介護に該当する「70歳以上」が最も高くなっています。平成13年と比較すると、主な介護者が確実に高年齢化していることがうかがわれます。

図5-2-14 主な介護者の年齢



(注) 無回答を除いて計算した

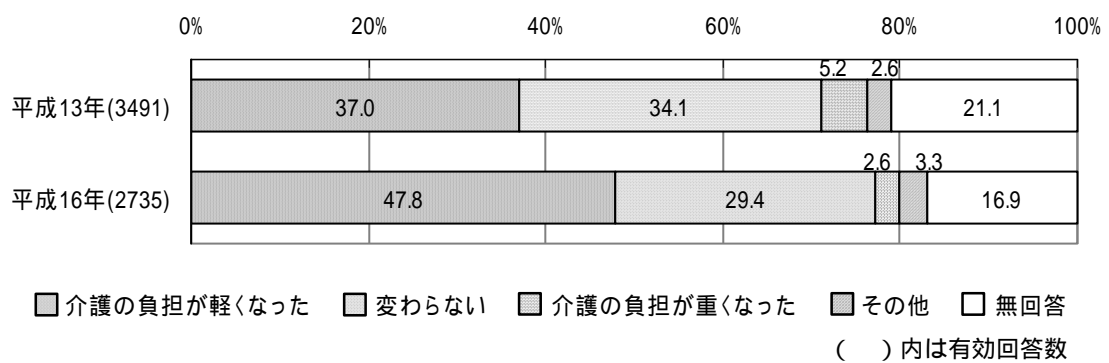
()内は有効回答数

(3) 肉体的・精神的な介護負担の変化

介護保険サービスを受けての精神的・肉体的な介護負担の変化は、「介護の負担が軽くなった」が47.8%である一方、「変わらない」が29.4%となっています。

平成13年と比較すると、「介護の負担が軽くなった」が10.8ポイント高くなり、「変わらない」は4.7ポイント低くなっています。つまり、介護保険制度の浸透が、介護負担の軽減に寄与していることがうかがわれます。

図5-2-15 介護負担の変化



6 居宅介護支援

(1) ケアマネジャーの訪問頻度

ケアプラン作成時のケアマネジャーの訪問頻度については、月「1回」が49.1%と最も高く、月「2～3回」が13.0%となっています。

平成13年と比べると、月「2～3回」が24.1ポイント低く、月「1回」が26.6ポイント高く2倍以上となっています。このことから、ケアマネジャーの訪問頻度は少なくなっていることがわかります。

居宅要介護認定者の回答とケアマネジャーの回答を比較すると、居宅要介護認定者では、4.6%が「数か月に1回」と回答していますが、ケアマネジャーでは「数か月に1回」という回答はなく、一方、ケアマネジャーは29.8%が月「2～3回」と回答していますが、居宅要介護認定者では月「2～3回」は13.0%となっています。

図5 - 2 - 16 居宅要介護認定者からみたケアマネジャーの訪問頻度

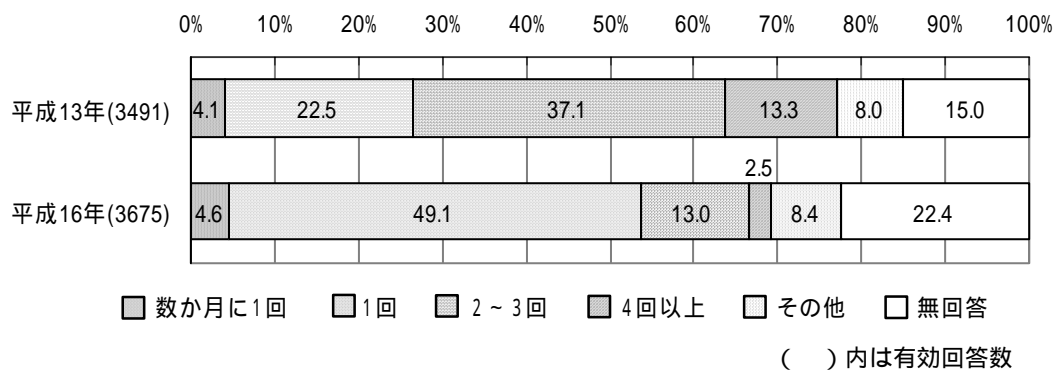
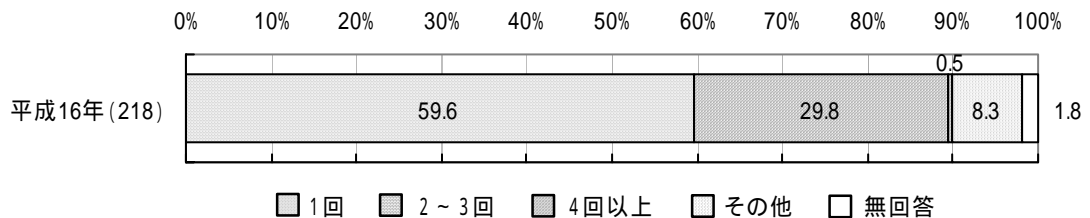


図5 - 2 - 17 ケアマネジャーが回答した訪問頻度

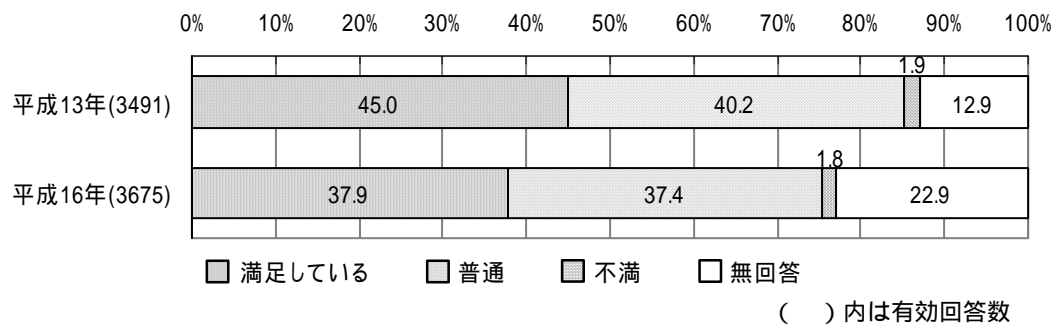


(2) ケアプランに対する満足度

ケアプランの満足度は、「満足している」が37.9%、「普通」が37.4%となっています。

平成13年と比べると、「満足している」が7.1ポイント低くなっています。しかし、これは、「無回答」が高くなっているためであり、「無回答」を除くと、「満足している」が平成13年で51.7%、平成16年で49.2%となっており、概ね同様の傾向にあります。

図5 - 2 - 18 ケアプランに対する満足度

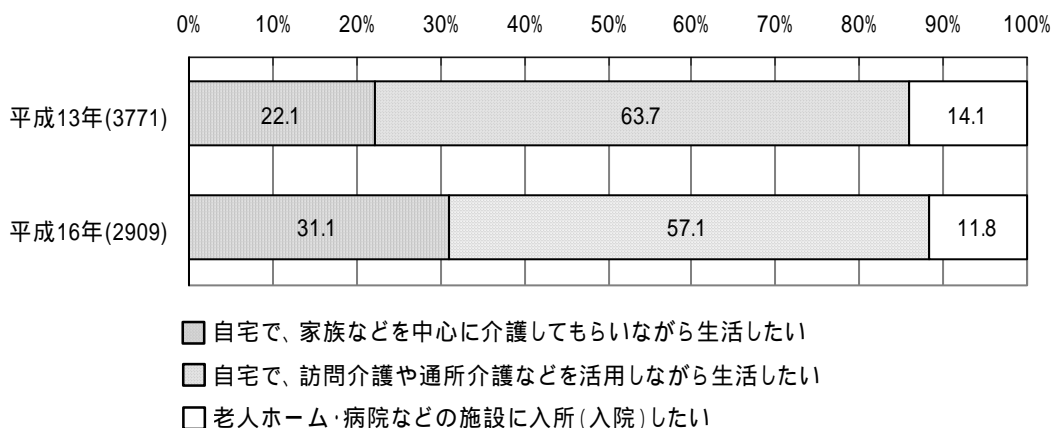


7 希望する将来の生活

居宅の要介護認定者の希望する将来の生活をみると、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が半数以上の57.1%となっています。

平成13年と比べると、「自宅で、家族などを中心に介護してもらいながら生活したい」が高くなり、「自宅で、訪問介護や通所介護などを活用しながら生活したい」が低くなっており、家族中心の介護を希望する人が増えていることがうかがわれます。「老人ホーム・病院などの施設に入所(入院)したい」に関しては低くなっています。

図5 - 2 - 19 希望する将来の生活



(注) 無回答及び平成13年「その他」平成16年「わからない」を除いて計算した

()内は有効回答数